

馬の季節性発情の サイクルについて

門別診療所 柴田 良

馬は長日季節繁殖動物であり、日照時間が長くなる季節（概ね4月～9月）に「繁殖期」を迎え交配を行う動物です。「繁殖期」には、発情期と黄体期から成る規則的な性周期を示します。秋になり徐々に日照時間が減少してくると、「秋季移行期」という状態になり、発情兆候や排卵が徐々に認められなくなります。さらに冬になると卵巢活動が完全に停止した「無発情期」になります。春に近づき徐々に日照時間が増加してくると停止していた卵巢活動が徐々に開始される「春季移行期」という状態になります。この状態では、ある程度の大きさまで卵胞の発育が見られますが、排卵までは至りません。その後、さらに日照時間が増加し、卵胞が成熟し排卵が起こると、前述した規則的な性周期を示す「繁殖期」に突入します。

基本的には、このような1年間の季節性発情のサイクルを示しますが、例外的に、年間を通して規則的な性周期を示したり、「繁殖期」から再び「春季移行期」や「無発情期」という状態に戻ってしまうケースもあります。さらに、1月、2月などの早期に分娩した馬では、初回排卵したにも関わらず、その後無発情の状態になってしまう事もあります。

繁殖シーズン初期のこの時期に直検をしていると、大きな卵胞や黄体が無く、発情兆候も明らかでは無いという繁殖牝馬が多く見られます。このような牝馬は「無発情期」もしくは「春季移行期」にあると考えられます。このような状態では、種付けにはなりません。できるだけ早い時期に交配するためには、「無発情期」や「移行期」を延長させずに、「繁殖期」の開始を早める必要があります。「無発情期」や「春季移行期」が延長する要因としては、年齢（若齢、老齢）、気候（日照時間、気温）、牝馬の栄養状態や健康状態、子宮の炎症や感染などがあります。人為的にこれらの要因をコントロールするこ

とで、早期の交配が可能になると考えられています。

最も有名な方法として、ライトコントロール法があります。ライトコントロール法に関しては、HBAのホームページの「馬獣医よもやま話バックナンバー」でご確認ください（空胎馬、分娩馬ともに記載があります）。気温に対しては馬服の着用が有効であると考えられています。牝馬の栄養状態に関しては、適度なボディコンディションスコアを保ち、馬をやせさせないように栄養管理を行うことが有効であると考えられます。また長期間「繁殖期」に移行しない馬の中には子宮内膜炎に罹患しているケースもあり、検査、治療を行うことで、「繁殖期」に移行する可能性もあります。

以上のような対策をしても、なかなか「繁殖期」に移行しない場合はホルモン製剤による発情誘起を行います。100%の効果が保証されているものではなく、さらに上述したような対策を行っていないとその効果は薄いものと考えられます。あくまでホルモン製剤による処置は最終的な手段としてお考え下さい。

馬獣医のよもやま話の バッグナンバー公開中

組合ホームページにて、軽協たよりに連載している馬獣医のよもやま話のバックナンバーを公開しています。下記のアドレスまたは組合のホームページからご覧いただけます。

また、「馬獣医のよもやま話」では執筆テーマを募集しています。獣医学的なことで皆様が知りたいことや疑問に思っていることなど、HBA獣医師に執筆してほしいテーマを下記メールアドレスまで、または口頭でお知らせください。

○馬獣医のよもやま話バックナンバー：

<http://www.hba.or.jp/yomoyama/yomoyama.html>

○メールアドレス：yomoyama@hba.or.jp